

「コネクテックアジア 2019」(ネクストアジア編)

神谷 直亮

先月号に引き続いて、「コネクテックアジア 2019」(6月18日から20日、シンガポールで開催)の傘の下で行われた「ネクストアジア 2019」についてレポートする。さらに、後半で先月号で書き漏らした「コミュニクアジア 2019」における衛星通信・衛星放送機器メーカーに触れたいと思う。

マリナ・ベイ・サンズ・コンベンション・センターの地下2階と6階を主会場にした「ネクストアジア 2019」のハイライトは、仮想現実・拡張現実・複合現実(VR/AR/MR)、5G、ロボットであった。

6階に大きなブースを構えてVR/AR/MRをプロモートしたのは、日本のシェルパ(Sherpa)社だ。本社を福岡県福岡市に構える同社は、「VR/AR/MRコンテンツの制作とサービスを行っている」という。具体的には、「Sherpa VR」と呼ぶフォトリアル3D VRの制作、「Dream AR」と名付けたARマーカークの代わりに空間認識センサーを駆使するARビジネス、IoTセンサーとリアル3D VR空間の融合の可能性を追求する「VR ∞ IoT」の3種である。「Dream AR」の活用例としては、好きな空間に好みの家具を自由に配置して、気に入った家具を即座に購入できるようにする家具メーカー向けARを挙げていた。「VR ∞ IoT」については、「トレーニングマシーンにIoTセンサーを取り付ければ、3D空間を自由に動き回ることができる。この用途に鑑みてジムに売り込みを図っている」という。さらに「アイトラッキングセンサー、表情センサー、脳波センサー

などの生体センサーを利用するリハビリや医療コミュニケーションツールに最適と考えてアプリケーションを開発中」と語っていた。

韓国からは、Salin社が出展して「Epic Live」のPRに余念がなかった。具体的な活用例を聞いて見たら「タブレットを使うVR英語教室やアイドルやスターとのVRファンミーティング」と答えていた。説明員によれば、「Salimは、ソーシャルVRメディアプラットフォームの提供やVR 8Kストリーミングも手掛けている」という。

今回、中国のファーウェイが出展を見送ったので、5Gの主演は韓国のKTであった。同社は、平昌オリンピックで商用化のトライアルを行い、4月3日に世界初のスマホ対応5Gサービスを開始している。KTは、地下2階に特設ブースを設営して来場者に「5G Skyship」と「GiGA Genie Hotel」の体験を促していた。「5G Skyship」については、「ヘリウムベースのドローンで、GPS、HDカメラ、赤外線カメラを搭載して災害対策、安全対策に活用できる。機体の長さは10m、幅4.7m、高さ3.7m」と説明していた。「GiGA Genie Hotel」のデモは、サムスン製のタブレットを手にして、KTのAIサービスプラットフォーム「GiGA Genie」の案内で、ホテル内を自由気ままに見て回るもので、AIと5Gを組み合わせているのが得意とする点である。

今回の会場でロボットの展示と実演を行ったのは、シンガポールのソルスター

(Solustar)社とOTSAWデジタル社だ。2012年に創業したというソルスターは、会場に「VAL II Concierge Robot」を持ち込んで、デモを繰り返していた。「接客係」の役目を果たす同ロボットは、身長が1.7mで、デジタルカメラ、スピーカー、小型モニターを装備している。言語については、「3か国語(English, Mandarin, Malay)を話すことができる」という。

OTSAWデジタルも屋内でのセキュリティ監視と接客を目的とした「O-R2」ロボットを会場に持ち込んで実力を誇示していた。既述の5社以外で目立ったのは、シンガポールのQuantum Inventions社が実演したスマート・カー・キー・シェアリング・システムだ。「SLICK」と名付けられたこのシステムは、スマホを使って車のカギを開け閉めするKaaS(Key as a Service)の普及を目指している。

「コミュニクアジア 2019」の会場における衛星通信・衛星放送機器メーカーの出展者は非常に多岐にわたったが、主流は衛星通信・衛星放送用のアンテナメーカーであった。今回の目立った傾向を取り上げるとすれば、まず船舶や航空機など移動体向けの高性能VSATアンテナと平面アンテナが挙げられる。次いで、ますます小型化・軽量化する可搬型アンテナと言うことになる。

日本からは、唯一東芝インフラシステムズが出展して孤軍奮闘していた。同社のブースでは今回、可搬型Kuバンド対応の平面アンテナ「TSL-F737MT10B」と「TSL-



写真1 VR/AR/MRの分野で脚光を浴びたのは、日本のシェルパ社であった。



写真2 韓国のKTは、「5G Skyship」を紹介して来場者の関心呼んだ。



写真3 KTの5Gブースでは、AIプラットフォーム「GiGA Genie」の案内で、ホテル内を自由気ままに見て回る事ができた。

「コネクテックアジア 2019」(ネクストアジア編)

神谷 直亮

先月号に引き続いて、「コネクテックアジア 2019」(6月18日から20日、シンガポールで開催)の傘の下で行われた「ネクストアジア 2019」についてレポートする。さらに、後半で先月号で書き漏らした「コネクテックアジア 2019」における衛星通信・衛星放送機器メーカーに触れたいと思う。

マリナ・ベイ・サンズ・コンベンション・センターの地下2階と6階を主会場にした「ネクストアジア 2019」のハイライトは、仮想現実・拡張現実・複合現実(VR/AR/MR)、5G、ロボットであった。

6階に大きなブースを構えてVR/AR/MRをプロモートしたのは、日本のシェルパ(Sherpa)社だ。本社を福岡県福岡市に構える同社は、「VR/AR/MRコンテンツの制作とサービスを行っている」という。具体的には、「Sherpa VR」と呼ぶフォトリアル3D VRの制作、「Dream AR」と名付けたARマーカークの代わりに空間認識センサーを駆使するARビジネス、IoTセンサーとリアル3D VR空間の融合の可能性を追求する「VR ∞ IoT」の3種である。「Dream AR」の活用例としては、好きな空間に好みの家具を自由に配置して、気に入った家具を即座に購入できるようにする家具メーカー向けARを挙げていた。「VR ∞ IoT」については、「トレーニングマシーンにIoTセンサーを取り付ければ、3D空間を自由に動き回ることができる。この用途に鑑みてジムに売り込みを図っている」という。さらに「アイトラッキングセンサー、表情センサー、脳波センサー

などの生体センサーを利用するリハビリや医療コミュニケーションツールに最適と考えてアプリケーションを開発中」と語っていた。

韓国からは、Salin社が出展して「Epic Live」のPRに余念がなかった。具体的な活用例を聞いて見たら「タブレットを使うVR英語教室やアイドルやスターとのVRファンミーティング」と答えていた。説明員によれば、「Salimは、ソーシャルVRメディアプラットフォームの提供やVR 8Kストリーミングも手掛けている」という。

今回、中国のファーウェイが出展を見送ったので、5Gの主役は韓国のKTであった。同社は、平昌オリンピックで商用化のトライアルを行い、4月3日に世界初のスマホ対応5Gサービスを開始している。KTは、地下2階に特設ブースを設営して来場者に「5G Skyship」と「GiGA Genie Hotel」の体験を促していた。「5G Skyship」については、「ヘリウムベースのドローンで、GPS、HDカメラ、赤外線カメラを搭載して災害対策、安全対策に活用できる。機体の長さは10m、幅4.7m、高さ3.7m」と説明していた。「GiGA Genie Hotel」のデモは、サムスン製のタブレットを手にして、KTのAIサービスプラットフォーム「GiGA Genie」の案内で、ホテル内を自由気ままに見て回るもので、AIと5Gを組み合わせているのが得意とする点である。

今回の会場でロボットの展示と実演を行ったのは、シンガポールのソルスター

(Solustar)社とOTSAWデジタル社だ。2012年に創業したというソルスターは、会場に「VAL II Concierge Robot」を持ち込んで、デモを繰り返していた。「接客係」の役目を果たす同ロボットは、身長が1.7mで、デジタルカメラ、スピーカー、小型モニターを装備している。言語については、「3か国語(English, Mandarin, Malay)を話すことができる」という。

OTSAWデジタルも屋内でのセキュリティ監視と接客を目的とした「O-R2」ロボットを会場に持ち込んで実力を誇示していた。既述の5社以外で目立ったのは、シンガポールのQuantum Inventions社が実演したスマート・カー・キー・シェアリング・システムだ。「SLICK」と名付けられたこのシステムは、スマホを使って車のカギを開け閉めするKaaS(Key as a Service)の普及を目指している。

「コネクテックアジア 2019」の会場における衛星通信・衛星放送機器メーカーの出展者は非常に多岐にわたったが、主流は衛星通信・衛星放送用のアンテナメーカーであった。今回の目立った傾向を取り上げるとすれば、まず船舶や航空機など移動体向けの高性能VSATアンテナと平面アンテナが挙げられる。次いで、ますます小型化・軽量化する可搬型アンテナと言うことになる。

日本からは、唯一東芝インフラシステムズが出展して孤軍奮闘していた。同社のブースでは今回、可搬型Kuバンド対応の平面アンテナ「TSL-F737MT10B」と「TSL-



写真1 VR/AR/MRの分野で脚光を浴びたのは、日本のシェルパ社であった。



写真2 韓国のKTは、「5G Skyship」を紹介して来場者の関心呼んだ。



写真3 KTの5Gブースでは、AIプラットフォーム「GiGA Genie」の案内で、ホテル内を自由気ままに見て回ることができた。